

スリランカ GV 報告書

文責：宇留野太一

1. GV スリランカ派遣概要

GV 活動は、国際 NGO 団体 Habitat for Humanity が主導する建築ボランティア活動である。Habitat for Humanity の理念は、「A world where everyone has a decent place to live. 誰もがきちんとした場所で暮らせる世界」を目指すことである。そうした目標の中で、今回のスリランカ派遣は、Habitat for Humanity の日本支部とスリランカ支部の支援の下で行われた。今回 GV には筑波大学生 14 名に加え、大阪電気通信大学生 1 名の計 15 名が参加した。

2. 費用

用途	金額
ドネーション代	45,000 円
飛行機代	87,112 円
宿泊費、食費等	102,135 円
合計	234,247 円

3. 日程

				15	16	17
				出国 スリランカ着	Welcome Ceremony	ワーク 1 日目 ① (番号は後述)
18	19	20	21	22	23	24
ワーク 2 日目 ② _[1] ③	ワーク 3 日目 ② _[1] ③④	CA	ワーク 4 日目 ② _[1] ③④	ワーク 5 日目 ② _[1] ③④	ワーク 6 日目 ② _[1] ③④	ワーク 7 日目 ② _[2] ③⑤
25	26	27	28	29		
ワーク 8 日目 ③⑤ フェアウェル	CA	CA	CA 出国	帰国		

○の数字はワーク内容

4. ワーク内容

作業①土地の穴掘

ワーク地に到着し、最初に行った作業はハウスイーターが実際に住む土地を家の間取り(図1)に合わせて穴を掘ることだった。更地の状態であったので地面を砕くところから始まり、そこからシャベル等でおよそ50 cm程度掘った。

(図2,3)

作業②岩運び^[1]、コンクリートブロック運び^[2]

掘った穴に入れるための大きささまざまな岩を運んだ。これは後述するコンクリートで固定し、家の基礎とした。コンクリートブロックは家の壁とするためのものである。この固定は後述するモルタルを用いる。

(図4,5)

作業③コンクリート・モルタル作り

岩や四隅の柱、コンクリートブロックを固定するためのコンクリートとモルタル。コンクリートは水、砂、セメント、砂利で作られ、モルタルは水、砂、セメントで作られる。コンクリートは砂：セメント：砂利=22：1：15の割合で作られ、モルタルは砂：セメント=15：1の割合で作られる。

(図6)

作業④基礎づくり

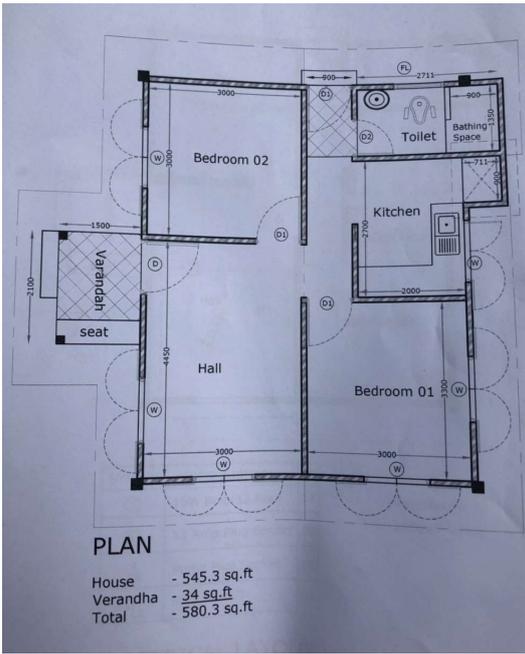
掘った穴にモルタルを流し込み、岩を入れる。その際、なるべく隙間ができないように岩と岩がきちんと合わせ、開いた隙間には小さい石を詰める。この時隙間を埋めるときに用いるのはコンクリートではなくモルタルである。それが終わるとその上に鉄筋を敷き(図7)、その上にモルタルを流し込み固める。またその他のスペースは重りで砂を押し固める。

(図8)

作業⑤壁づくり

運んだコンクリートブロックを積み重ねて壁を作る。コンクリートブロックの固定はモルタルを用いる。ブロックは半分ずつずらしながら置き、上述した基礎の上に真っ直ぐになるように置く。

(図9,10)



(图 1)



(图 2)



(图 3)



(图 4)



(图 5)



(図 6)



(図 7)



(図 8)



(図 9)



(図 10)

私たちが担当したのは壁 1m ほどまでである。

ワーク期間中、メンバーは現地のワーカーの方々とよく交流していた。現地の言葉を教えてもらったり、写真を撮ったりと大変楽しんでいただけたように思う。また昼食後は食堂の近くの学校の生徒たちと一緒にクリケットと呼ばれる、スリランカで盛んなスポーツも行った。ワークだけではなく、実際に現地に行かなければできない体験ばかりで、GVだからこそ得られたものが多くあったように思う。

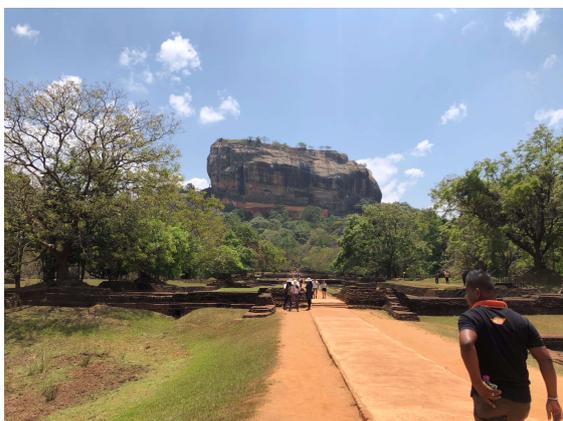


5. CA：文化等を知る活動

今回の CA (Cultural Activity) は、世界遺産であるシギリヤロックを含め、現地の文化や歴史を知ることができるような場所への訪問が多かった。シギリヤロックでは実際にその歴史を日本語が堪能なガイドの方に教えてもらい、歴史背景を知りながら登ることができた。また昔の生活を体験できるツアーにも参加し、現地の食住の文化にも触れることができた。キャンディーでは、実際に寺院の訪問や、劇場でスリランカの民族舞踊を鑑賞した。

その他にもショッピングでは、スリランカの伝統工芸品や有名な紅茶を購入することができた。サファリでは実際に野生のゾウや孔雀を見ることができた。

この CA を通して現地のことを知ることができるのは GV ならではあり、非常に有意義な時間であったように思う。



6、ホームオーナーへのインタビュー

今回の派遣先は盲目の人々が多く住む村であり、私たちのホームオーナーも視力が弱く手足に障がいを抱えている。そのため働くことができずに娘からの仕送りで生活していた。今まで住んでいた家は雨漏りもすごくいつ壊れてもおかしくない状況であったが、資金不足によりその家に住む他なかったとのことである。今回の支援は建築資金を全額 Habitat が負担しており、Habitat が派遣先の村の中から特に支援を必要とする家を選出した。